2014年10月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第453号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

名編集者・大久保房男先生逝く

心を打つ小説とはどういうものかを、実際の編集経験を活かし、とことん考えて書き続けた。

文・菊池洋子（紅書房代表）

＜紅書房から刊行されている大久保房男氏の著作物＞　写真上段右から、『文藝編集者はかく考える』1988年4月初版 第五刷・定価2,700円（税込）／『理想の文壇を』1993年9月初版 第二刷・定価2,621円（税込）／『文士とは』1999年6月初版 第三刷・定価2,484円（税込）／『終戦後文壇見聞記』2006年5月初版 第二刷・定価2,700円（税込）　下段右から、『文士と編集者』2008年9月刊・定価2,700円（税込）／『戦前の文士と戦後の文士』2012年5月刊・定価2,484円（税込）／『海のまつりごと』1991年3月初版 第二刷・定価2,935円（税込）

「純文学の鬼」と畏れられた元「群像」編集長で作家の大久保房男先生が7月25日満92歳で亡くなられた。90歳を過ぎてもお元気で執筆なさっていらしただけに、残念でならない。

小社では、1988年以来26年の長きにわたりご指導を頂き、その間6冊の文藝編集者ものと、1冊の書下ろし小説を出版させていただいた。それらは小社の大切な宝物として、どれも刊行以来品切とならないように努めている。

大久保先生の本は、新聞の匿名批評や書評に取り上げられることが多く、知名度の低い紅書房の名も出して頂き、感謝に絶えない。大久保本が出ると、ある作家は、まず自分に対する批評が書かれていないか気にして頁をそうっとめくり、書かれていないことがわかると、安心して大きく開いて読み始めるそうだと大久保先生から伺ったことがある。作家からいかに恐れられていたかがわかるエピソードだ。

海賊の末裔

大久保房男とはどんな人であったのか、著書のなかに自画像の一文があるので紹介したい。

「大正10年の二百十日、熊野灘の漁港の生れ。石坂洋次郎氏にはいつも熊野の海賊の末裔と紹介されたが、先祖はたぶん海賊。小学校を終えて伊勢の津中学、慶應義塾と進み、学徒出陣による海軍の二年間をのぞいて下宿生活十四年。民俗学者たらんとして折口信夫先生に師事するも、師を越えること不可能と覚り、都電の『群像』創刊広告を見て講談社に入る。昭和三十年編集長、四十一年退く。近代日本文学と民俗学の知識少々あるも、他のことは恥かしい限り。」と謙虚な文で、大久保先生らしい。

各著書紹介

小社刊の第1冊目は『文藝編集者はかく考える』(1988年刊)である。冒頭の章「文章と言葉のこと」を読むだけでも、著者の文章哲学が詰まっていて、作家志望者や編集者ならずとも、とてもためになる文である。「手垢のついた言葉といわれる常套語、子供の文章みたいだといわれるオノマトペ、血の通わぬ概念的な説明、そういったもので文章を書いちゃいけない、通俗的になり、品がなくなる、などという基本的なことは勿論のこと、真の文学とはどういうものかを、誰ということなく、文壇が教えていたのだが。」と、小説などで文章が軽んじられている傾向にたいして警鐘を鳴らしている。

この思いは一層強く次作『理想の文壇を』(1993年刊)へと引きつがれる。文壇には教育機関があるといわれていたその教育機能もすっかり失われてしまったのだろうか、とその変化を肌で感じ取り、「文士は本音でしか物言わぬ」、「元編集者には見える腐蝕」、「批判を恐れる文壇」、「下向いて書くな」、「時代物に手を出すな」などという章題からも察せられるように、日本文学の将来を見据えての提言は、どれも重

みのあるものだ。巻末にある対談「文士・高見順」がまた面白い。お相手は同時期に文藝誌「新潮」の編集者だった田邉孝治氏で、鬼の大久保、仏の田邉とも並び称されていたお二人の対話は、作品誕生にまつわる話や言動をありありと伝えてくれる。

第3作『文士とは』(1999年刊)では、伊藤整の大著『日本文壇史』(これも編集者大久保房男の企画)で語られる「日本の文壇においては、作品のよしあしよりも、その作者がいかに生きたかが問われるのです。書かれた作品よりも、書いた人間の方がおもしろいんです」という記述に思いを重ね、自らが見た、それぞれ個性的な文士たちの姿を綴り、飽きさせない。

「文士の女房が死屍累々」や「文士赤貧物語」を始めとする凄まじいまでの文士の生き方は、それぞれの作家の作品に結晶しているものもあろうが、また書かれなかった別の小説のようにも感じられるほどだ。

第4作『終戦後文壇見聞記』(2006年刊)では、題名が示すとおり、戦後、文壇はどう変わっていったのかを、青野季吉、伊藤整、丹羽文雄、高見順、佐藤春夫、中野重治、佐多稲子、平林たい子など作家別に、その執筆の様子や周辺の動向を交え綴っている。

この作家たちの名前からも感じられるように、左翼作家の動きや戦争責任の追及にも触れて興味深い。阿川弘之氏はこの本について「作家評論家一人々々の顔の表情が泛んで来るやうな描き方がしてあるので、大変面白い」と「月刊文藝春秋」の巻頭随筆に取り上げて下さり、お蔭で出足よく有難かった。

第5冊目は『文士と編集者』(2008年刊)。

ここでは大久保先生が育てたといわれる「第三の新人」の作家たちの中で、安岡章太郎、吉行淳之介らが長編作品に取り組み、それらが評判を呼び、徐々に名声を得ていく様子が明かされて興味尽きない。

そして遠藤周作氏との対談や、遠藤氏の結婚にまつわるエピソードなども一読の価値あるものだろう。また高見順氏のことを書いた「『いやな感じ』をめぐる思い出」は、お互い作家と編集者という立場で一歩も譲れないという気迫がこもり、火花が散るような文章だ。

第6冊目は『戦前の文士と戦後の文士』(2012年刊)。ここでも大久保先生の主張は緩むことがない。「うまい小説と重い小説」、「悪評への耐久力」、「文士は文章でメシを食っている」、「悪口と匿名批評が純文学を守る」などの章題を紹介しよう。戦前の文壇では誰もが貶されたり厳しい批評を受けて、文士としての実力を備えていったという先輩作家からの見聞をもとに、戦後変ってゆく文士の姿を語る。

また「日本で最も恵まれた文藝編集者」および「古きよき時代の編集者」では、様々の苦労や困難に当たりながらも、よき文士や理解ある社長のお蔭で満足のいく編集者生活であったことを回想する。

純文学の編集者が書いた純文学小説

最後に書下ろし小説『海のまつりごと』(1991年刊)に触れたい。大学生になった中島は紀州熊野出身の同級生南部と知り合い、冬休みに帰郷した南部の誘いを受け、ある漁港に着く。網元である南部の父親の厳めしさ、水夫たちの様子、初めて連れていってもらった漁にまつわる風習や漁法、町独特の仕来りや言い伝え、過去の事件など、東京生まれの中島には驚くことばかりであった――。

折口民俗学を学んだ著者が、故郷紀伊長島町を舞台に、彫琢された言葉や文章をもって書き上げた小説で、本作で平成3年度藝術選奨文部大臣新人賞を受賞する。今から20年以上前に書かれたものだが、町に起きた原発設置問題を運命共同体のような漁師たちが反対するという場面もあり、今回久しぶりに読み直してみて、なお新鮮な味わいに満ちた中身の濃い小説であることをあらためて確認した。

大久保本の魅力

大久保房男の本の特徴は、他の編集者の著書に多くあるように、作家の知られざる素顔や作品誕生の秘話が伺えるということも勿論だが、そこからさらに突き進んで、ホンモノの文士とは何か、教育機能を果していた文壇とは、心を打つ小説とはどういうものかを、実際の編集経験を活かし、とことん考えて書き続けたことではないだろうか。批判的に書く作家や評論家の名前はあえてあげず、比較のために登場させている。個人を非難することが目的ではないのだ。そういう点にも独自性があると思う。

「鬼」の由来

中野重治氏の『むらぎも』の単行本が完成したときに、中野氏は「鬼のごとき君が督促はつまるところ愛のごとかりしものと我は合点す」他一首を扉に揮毫して大久保先生に渡されたそうだ。高見順氏も督促を緩めない大久保先生の態度に苦しみつつ、名作『生命の樹』を完成させたとのこと。中野氏も高見氏も十歳以上年上のすでに名をなしている作家であっても一切容赦しなかったことから拠ってつけられたそうだ。

名編集者の本を編集して

第一冊目刊行はひとり出版社を起こしてまだ三年目のこと。無知無能は承知のうえ、体当たりで出版をお願いしたところ、幸いにもお受け頂いた。こちらの怠慢や言い訳がましい弁解にお叱りを頂戴したことも幾たびか、以後誠実第一を心がけ、様々なことを教えて頂きながら一冊一冊が出来上がっていった。

校正のやりとりが終わってほっと一息つくまもなく、こんどはまるで言葉クイズのように「あんた、ハハジャヒトってわかるか」「キンカクは」「サリキライは」「四六時中は使わん、二六時中だ」、こんなご下問がたびたび行われた。

私の場合は右から左へ抜けていくばかりだったが、教養と記憶力に優れ、本当に頭の強い先生であった。紅書房を見捨てず、長年お付き合い頂きましたことを心より感謝申し上げます。

（きくち　ようこ）

新刊ダイジェスト

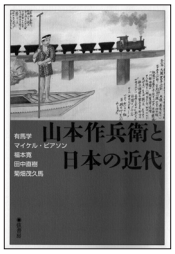
※価格は税込（消費税率8%）表示です。

『増山たづ子　すべて写真になる日まで』●増山たづ子著

岐阜県の揖斐川最上流部、旧徳山村（現揖斐川町）は人口1500人、言葉、生活、昔話等に貴重なものが残っている秘境であった。1977年この地にダム建設計画が本格化すると（2008年完成）、増山たづ子（1917-2006）は、全村湖底に沈む生まれ育ったふるさとの記憶を写真にして遺そうと、60歳にして素人向けカメラ・ピッカリコニカを手に入れ、毎日「村の人々を一人残らず、このふるさとの隅から隅まで撮った」。写っているどの人々もくつろいだほほえみを残している。増山にとって写真がブレようがボケようが、そんなことはどうでもよかった。そんなものを突き抜けて、心の奥深いところを動かす写真集となっている。

◆3564円・B5判変型判・396頁・**NOHARA**・静岡・2014/5刊・ISBN978-4-904257-21-0

『山本作兵衛と日本の近代』●有馬　学ほか編著



炭坑夫・鍛冶工山本作兵衛による筑豊炭田の記録画と日記、原稿など659点が、2011年に我が国初の世界記憶遺産に登録されたことを記念し、翌年に福岡で開催された国際文化セミナーの記録。日本近代史、産業遺産、石炭産業史の研究者、地方行政担当者、現代美術家が山本と史料群の魅力を語る。20世紀前半、夫婦働きによる過酷な労働実態から、騒動、喧嘩、地域総出の盆踊りまで、自分の仕事の体験を絵と文字で記録し、絵画としての面白さを十分に備えながら、我が国近代史とヤマの生活史を浮き上がらせる大切な記録と評価。こうした記録を田川市と福岡県立大が推薦し、人類が長く後世に記憶すべきものとして認定されたことは大変に意義深い。

◆1944円・四六判・165頁・**弦書房**・福岡・2014/8刊・ISBN978-4-86329-104-1

『土曜日の子ども』●小森　収著

土曜日にだけやって来て奇妙な両替を頼む幼い兄妹、どしゃ降りなのに傘を使わずに殺されていた男、買うのでも盗むのでもなく棚一列分のコミックスを取り出し、入れ替える高校生。公園に面した書店で働く「私」が遭遇した数々の謎が常連客によって解き明かされていく。

本書は書店を舞台にした6編の連作ミステリー。虐待や差別など謎の真相は時に重く、やるせないが、現代社会の歪みをじっくりと考えさせられる。救いは謎を解く客“よしえさんの旦那さん”が弱者に向き合う時の真摯な態度である。なお、第一話ではアルバイトだった私は第五話では店長になる。主人公だけではなく、脇役の成長、活躍にも注目したい。

◆1512円・四六判・221頁・**フリースタイル**・東京・2014/8刊・ISBN978-4-939138-72-0

『織田信長　その虚像と実像』●松下　浩著

織田信長といえば一代で天下人まで上り詰め、今なお人気があります。そのため、楽市楽座や比叡山の焼き討ち等、既成秩序の破壊者というイメージをお持ちの方も多いでしょう。

しかし本書は史料の解読に即して信長の姿を描き出すことを試みます。そこから見えてくる姿は、決して革新的なものでありません。楽市楽座は特定地域に限ったものですし、比叡山を焼き討ちしたのも信長に敵対したがため。本書で描かれる信長は、秩序破壊というより既成秩序を上手に利用し勢力を拡大した戦国大名の姿と言えるでしょう。著者の地元である近江国を中心にした地域社会と信長の関わりからも、その点がよくわかります。

◆1296円・B6判・159頁・**サンライズ出版**・滋賀・2014/6刊・ISBN978-4-88325-177-3

『イッペーの花　ー小説・ブラジル日本移民の「勝ち組」事件』●紺谷充彦著

都会でネット詐欺師まがいの生活を送る達也に、郷里から祖母の死を告げる電話が入る。かってブラジル移民だった祖母から、「アンタには、宮様の血が流れている」と聞かされたことを思い出し、衝動的にブラジルに渡る。戦前、国策移民の多くは貧困に喘ぎながら帰国の日だけを夢見ていた。やがて終戦。だが、情報遮断と誘導により、殆どの者が祖国の勝利を信じて疑わない「勝ち組」になっていた。それにつけこんで偽の宮様を仕立て、収奪を目論む者が現れる。達也は地元記者の助けを借り、祖母がその哀しい被害者であったことを突き止める。敗戦の事実を知った同胞の暗殺事件まであった当時の過酷な状況を、ドキュメンタリータッチで描く。

◆1836円・四六判・230頁・**無明舎出版**・秋田・2014/7刊・ISBN978-4-89544-583-2

『地域社会を創る　ーある出版人の挑戦』●阿部年晴著

埼玉県の人口は723万人（平成26年）、47都道府県の中で第4位である。また、高度成長期の10年間では、301万人（昭和40年）から482万人（同50年）へと急増しており、増加率は実に60%強である。そして、就業者と通学者の合計400万人のうち、120万人が隣接する東京都へ通勤・通学しており、「埼玉都民」という呼称が用いられている。

本書では、文化人類学者である著者が、地域に根付いて活動するさきたま出版会の会長をキーパーソンとして、地域や地域コミュニティの話を展開している。一般に関心が湧きにくい埼玉県を舞台とする地域論、「見知らぬ世界はすぐ足もとにある」と感じさせられる。

◆2160円・A５判・231頁・**さきたま出版会**・埼玉・2014/8刊・ISBN978-4-87891-411-9

『はばたく上州娘　ータイ王宮で生糸づくり』●古田節子著

今年、世界遺産に登録された富岡製糸場。明治政府が日本の近代化のために最初に設置した模範機械製糸場だが、およそ100年前にここで技術を学んだのち東京の蚕糸専門学校へ入学、さらに技術指導のためタイに渡った小金澤さわという女性が存在した。バンコク滞在時に撮影された約100枚の写真が長女の家で見つかり、新聞記事になったことがきっかけで、さわの孫である児童文学者の著者が、さわの生い立ちから帰国までを物語風にまとめた。下仁田町で商店と養蚕をしていた家に長女として生まれ、持ち前の活発さで努力を続けたさわ。タイの製糸技術にも貢献した彼女の“遺産”も貴重である。当時の写真と通信文も掲載されている。

◆1080円・四六判・184頁・**上毛新聞社**・群馬・2014/6刊・ISBN978-4-86352-108-7

地方小出版流通センター　ジャンル別新刊案内

2014年8月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

【雑誌】

◆**あおもり草子**　Ｎｏ．２２５　佐藤　史隆編　Ａ４　48頁　６００円　企画集団ぷりずむ［青森］978-4-503-20303-8　14/08

◆**飲食ＭＡＰ青森**　ＶＯＬ．１２　企画集団ぷりずむ編　Ａ５　122頁　３００円　企画集団ぷりずむ［青森］978-4-906691-51-7　14/08

◆**会津人群像**　Ｎｏ．２７　阿部　隆一編　Ｂ５　105頁　１２９６円　歴史春秋社［福島］978-4-89757-832-3　14/08

◆**ＧＲＥＥＮ　ＲＥＰＯＲＴ**　４１６　廣瀬　仁編　Ａ４　192頁　２８００円　地域環境ネット［埼玉］978-4-905457-48-0　14/08

◆**ママともぷらす　東京ベイ・千葉版**　Ｎｏ．６０　市川　恵美子編　Ａ４　88頁　６００円　明光企画［千葉］978-4-503-20312-0　14/08

◆**子どもと読書**　４０７号　親子読書地域文庫全国連絡会編　Ａ５　40頁　５５０円　親子読書地域文庫全国連絡会［神奈川］978-4-907376-07-9　14/08

◆**ＡＸＩＳ**　Ｖｏｌ．１７１　石橋　勝利編　Ａ４　128頁　１８００円　アクシス［東京］978-4-503-20317-5　14/10

◆**オルタ**　４５５　田中　滋編　Ｂ５　21頁　３２４円　アジア太平洋資料センター［東京］978-4-503-20306-9　14/08

◆**Ｂｅ！**　１１６号　Ｎｏ．１３９　今成　知美編　Ａ５　110頁　８６４円　アスク・ヒューマン・ケア［東京］978-4-901030-92-2　14/09

◆**地方史研究**　第３７０号　地方史研究協議会編　Ａ５　152頁　１２３４円　岩田書院［東京］978-4-87294-970-4　14/08

◆**仏事**　Ｎｏ．１６８　清水　祐孝編　Ａ４　92頁　１６２０円　鎌倉新書［東京］978-4-503-20318-2　14/09

◆**月刊住職**　Ｎｏ．１８９　矢澤　澄道編　Ａ５　199頁　１４０４円　興山舎［東京］978-4-904139-97-4　14/08

◆**子どもの文化**　Ｎｏ．５２１　片岡　輝編　Ａ５　48頁　３１３円　子どもの文化研究所［東京］978-4-503-20319-9　14/09

◆**子どもと本**　第１３８号　子ども文庫の会編　Ａ５　48頁　６３７円　子ども文庫の会［東京］978-4-906075-42-3　14/07

◆**ｔｈｅ座**　Ｎｏ．７９　小西　恵美子編　篠藤　ゆり編　Ｂ５　48頁　１０００円　こまつ座［東京］978-4-503-20309-0　14/06

◆**ｔｈｅ座**　Ｎｏ．８０　小西　恵美子編　篠藤　ゆり編　Ｂ５　48頁　１０００円　こまつ座［東京］978-4-503-20310-6　14/05

売行良好書

期間：2014年8月16日～9月15日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『つるかめ食堂　子が親に作りおくごはん』1512円・ベターホーム出版局　(2)『セミと仲間の図鑑　フィールド版』1620円・トンボ出版　(3)『未来ちゃん』2160円・ナナロク社　(4)『万象の訪れ』2592円・弦書房　(5)『ゆうやと一緒に歩く道』1728円・木星舎　(6)『月と蛇と縄文人』1944円・寿郎社　(7)『自閉症の子どもたちの生活を支える　増補版』1620円・エンパワメント研究所　(8)『山本美香が伝えたかったこと』1404円・山梨日日新聞社　(9)『山本作兵衛と日本の近代』1944円・弦書房　(10)『写真帖　追憶の仙台』1944円・無明舎出版　(11)『つよくなりたい』1404円・石風社　(12)『デザインマンホール１００選』1836円・アットワークス　(13)『私たち抜きに私たちのことを決めないで』1000円・やどかり出版

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『東京かわら版　９月号』432円・東京かわら版　(2)『本屋の雑誌』2138円・本の雑誌社　(3)『涙を流し口から火をふく、四川料理の旅』1620円・書肆侃侃房　(4)『織田信長　その虚像と実像』1296円・サンライズ出版　(5)『昭和プロレスマガジン　３３』1000円・昭和プロレス研究室　(6)『奥多摩東部登山詳細図』823円・吉備人出版　(7)『東京の１００横丁』1728円・フリースタイル　(8)『「絶対基礎力」をつける勉強法』1296円・瀬谷出版　(9)『手賀沼をめぐる中世２』1080円・たけしま出版　(10)『疾風六文銭真田三代と信州上田』864円・週刊上田新聞社

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『目で見る　豊島区の１００年』9990円・郷土出版社　(2)『満州の星くずと散った子供たちの遺書』1620円・夢工房　(3)『セミと仲間の図鑑　フィールド版』1620円・トンボ出版　(4)『四川料理の旅』1620円・書肆侃侃房　(5)『ＴＨＥ　ＢＵＲＧＥＲ　ＭＡＰ　ＴＯＫＹＯ　東京・神奈川・埼玉・千葉』1404円・幹書房　(6)『奥多摩東部登山詳細図　全８８コース』823円・吉備人出版　(7)『中原中也の鎌倉』1944円・冬花社　(8)『おばぁタイムス』648円・沖縄タイムス社　(9)『昆虫の図鑑　採集と標本の作り方　増補改訂版』3780・円・南方新社　(10)『解説　出雲国風土記』2000・円・今井出版

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

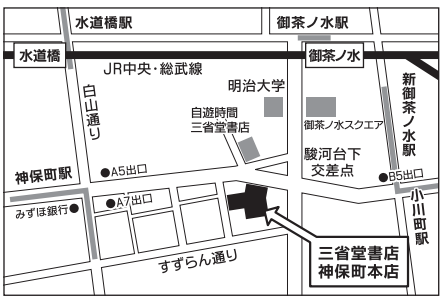
トピックス ―― ★★★

▼今年もカレンダーの季節がやってきます。日本野鳥の会のカレンダーはいつもは、壁掛けタイプと卓上の二種ですが、今年は創立80周年記念として**「未来に残したい鳥風景」**（1200円＋税）という、小型の壁掛タイプを出します。A3判14枚で、80周年記念写真展に入選した作品によって構成されています。通常のものはB3判14枚の「ワイルドバード・カレンダー2015」（1,400円＋税）と、17.8×14.8cm・１３枚の「バーズ・イン・シーズン2015卓上カレンダー」（1,000円＋税）です。

▼シーガルの今年のカレンダーは、＜暦で知る美しい四季・季節を感じる暮らし＞をテーマにした**「歳時記カレンダー」**小（A3変形判・1,500円＋税）、大（B3判・2,000円＋税）や、＜月を眺め月を楽しむ　心ゆたかな暮らし＞をテーマにした**「ルナカレンダー」**ミニ（B4変形判・1,000円＋税）、大（B3判・1,800円＋税）、そして、**「タイド＝潮汐カレンダー」**（B3判・1,800円＋税）や**「月のメモカレンダー」**（Ｂ３判タテ1/2・1,000円＋税）などがあります。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。
★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。